

ラプター
把持鉗子

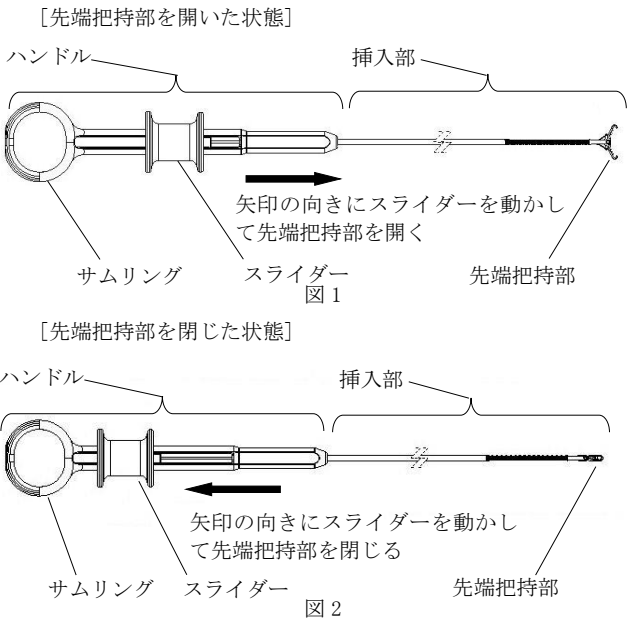
再使用禁止

JUEF0092

【禁忌・禁止】
併用医療機器「相互作用の項参照」
・電気手術器およびそのアクセサリーとは併用しないこと[感電のおそれがある]
使用方法
・再使用禁止

【形状・構造及び原理等】

1. 形状



2. 材料及び寸法

[材料] ステンレス鋼
[寸法]

タイプ	把持部開口幅	挿入部最大径	有効長
ミニ	7 mm	1.9 mm	200 cm
スタンダード	11 mm	2.4 mm	230 cm

3. 原理

ハンドルに対してスライダーを手元側にスライドさせることにより、先端把持部を閉じ、組織または異物を把持、回収する。また、挿入部の先端側が樹脂で被覆されていないため、内視鏡の湾曲部を曲げた状態でも、側視タイプの内視鏡でも、本品の挿入部が追従し、操作をすることができる。

【使用目的又は効果】

本品は、内視鏡治療時に専用の内視鏡とともに使用する器具で、組織又は異物の把持に用いるものをいう。

【使用方法等】

- 包装を開け、本品を取り出す。本品の先端から保護キャップを取り外し、本品の巻きを解いておく。
- スライダーを前後に動かし、先端把持部がスムーズに開閉することを確認する（図1参照）。
- 本品を内視鏡に挿入する前に、スライダーをサムリングの方に動かし、先端把持部が閉じた状態になっていることを確認する（図2参照）。
- 内視鏡で対象物が確認されたら、本品を折り曲げないように内視鏡の鉗子口から少しずつ挿入していく。
- 本品を内視鏡に挿入する際に抵抗を感じたら、本品がスムーズに通るまで、内視鏡のアングルを小さくするか、内視鏡の起立

- 台を低くする。
- 回収対象物を注意深く見ながら、先端把持部を対象物に近づける。サムリングから離す方向にスライダーを動かして先端把持部を開き、回収対象物をゆっくりと把持する。
 - 回収時に対象物を見失わないように、本品の先端が内視鏡で見えるようにしておく。
 - 先端把持部で対象物を把持したら、本品を内視鏡とともにゆっくりと抜去する。
 - 患者から内視鏡と本品を抜去したら、サムリングから離す方向にスライダーを動かして先端把持部を開き、回収物を取り外す。
 - 先端把持部が閉じた状態で、内視鏡から本品を取り出す。
 - 患者から対象物をさらに回収する場合は、先端把持部がスムーズに開閉することを確認し、上記の手順3～10を繰り返す。

【使用方法等に関連する使用上の注意】

- 本品を内視鏡に挿入する際に抵抗を感じたら、そのまま無理に挿入を進めないこと。[本品や内視鏡に損傷を与えたり、患者や術者に傷害を与えるおそれがある。]
- 内視鏡の視野が明瞭になるまで、本品を内視鏡に挿入しないこと。[患者に傷害を与えるおそれがある。]
- 内腔が完全に塞がっているような場合に、視野が確保できない状態で本品を無理に閉塞部の先に挿入しようとししないこと。
- ハンドルに力を入れすぎたり、内視鏡の外側で本品をぐるぐる巻いたりしないこと。[本品や内視鏡に損傷を与えたり、患者や術者に傷害を与えるおそれがある。]
- 対象とする異物や組織を把持するときには、対象外の組織や器官を誤って把持しないように注意で行うこと。
- 異物や組織の回収中は、スライダーに常にトラクションをかけ続けておくこと。[異物や組織の把持がゆるんだり、外れたりして、気管内に誤嚥してしまうおそれがある。]
- 異物や組織の回収に最適な方法は、異物や組織の種類または回収時の臨床条件により異なることに留意すること。
- 先端把持部に回収対象物を把持した状態で、内視鏡の鉗子チャンネル内に本品の先端把持部を引き込まないこと。[本品や内視鏡に損傷を与えるおそれがある。]

【使用上の注意】

- [重要な基本的注意]
- 本品を永久留置型のステントを回収するために使用しないこと。本品は一時留置型のステントを回収することは可能である。

[相互作用]

- (1) 併用禁忌
- 電気手術器およびそのアクセサリーとは併用しないこと[感電のおそれがある]

【保管方法及び有効期間等】

- [保管の条件]
- 水濡れに注意し、直射日光及び高温多湿を避けて保存すること。
- [有効期間]
- 包装の使用期限欄を参照 [自己認証による]。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

- 製造販売業者
株式会社ジェイエスエス
大阪市中央区道修町 1-6-7 TEL：06-6222-3751
- 外国製造業者
ユーエスエンドスコープグループ インク
(U. S. Endoscopy Group Inc.)
アメリカ